

AMH結果: **2.83** ng/ml

検査日: 2016/02/03

 優先初診あり
 優先初診なし

【検査結果の読み方】

今回測定したAMHは、抗ミュラー管ホルモンと呼ばれる女性ホルモンの一種で、卵巣の中にある今後の排卵のために発育過程にある卵子(前胞状卵胞)から分泌されています。

卵巣内の卵子の数(原始卵胞)には限りがあり、この原始卵胞が少なくなるとAMHの値も低くなります。AMHが高いということは卵巣内に今後排卵可能な卵子が多くあるということで、逆にAMHが低いということは今後排卵可能な卵子が少ないということです。AMHには正常値というものはなく、現状のあなたの卵巣の状態を示す数値となります。これが卵巣予備能と呼ばれる所以です。

AMHはあくまで「卵巣の中にこれから育つ卵子がどれくらい残っているか」の目安に過ぎず、妊娠の可能性を測るものではありません。AMHが低くても妊娠される方も多くいます。また、AMHが高すぎる場合には、多くの卵性卵巣症候群(PCOS)という疾患である場合があります。

AMHを測定し卵巣の状態を確認することは、今後のあなたの妊娠・出産の目安としてとても重要なことです。

予想される卵巣予備能とアドバイス

- 多くの卵性卵巣症候群(PCOS)の可能性がります。
- 年齢相応の状態です。
- 卵巣予備能に問題はあります。
- 卵巣予備能の低下がみられます。

月経周期が35日以上の場合や、基礎体温表が二相性でない場合は婦人科へご相談ください。既婚の方で挙児希望がある場合は、治療が必要になります。不妊治療施設へご相談ください。

卵巣予備能には問題ありません。既婚の方で挙児希望があり半年以上妊娠しない場合は、ご夫婦共に検査をお勧めします。

35歳を超えると卵子の老化が顕著となります。既婚の方で挙児希望があり半年以上妊娠しない場合は、ご夫婦で早めに不妊治療施設へご相談ください。別紙の「35歳以上の方へ卵子の老化について知って頂きたいこと」をご覧ください。

既婚の方で挙児希望がある場合には、ご夫婦で早めに不妊治療施設へご相談ください。

卵子も41～44歳の状態にあり、卵子の老化により妊娠率の低下、流産率の上昇、ダウン症等の染色体異常が懸念されます。既婚の方で挙児希望がある場合には、ご夫婦で早めに不妊治療施設へご相談ください。ご夫婦ともにすべての検査に異常がない場合の自然妊娠の確率3%以下、人工授精の妊娠率3%以下、体外受精の妊娠率5～20%です。別紙の「35歳以上の方へ卵子の老化について知って頂きたいこと」をご覧ください。

既婚の方で挙児希望のある場合は、ご夫婦で早めに不妊治療専門施設へ相談頂き、妊娠率の高い体外受精を検討しましょう。

卵子も45歳以上の状態にあり、卵子の老化により妊娠率の低下、流産率の上昇、ダウン症等の染色体異常が懸念されます。既婚の方で挙児希望のある場合は、リスクの点も含めて医師とご相談ください。

AMHが低値のため、不妊治療を希望される場合は方法が限られます。既婚の方で挙児希望のある場合は、ご夫婦で早めに不妊治療専門施設へ相談頂き、最善の方法を選択しましょう。